DE6
8

0024155000

0024155-000

DE6－8

反防共国家ノ対日経済断交ノ影響ト其対策

日満財政経済研究会

1939

ADD

極秘

昭和一四・五・一

反防共国家ノ對日經濟斷交ノ影響ト其對策

例言

本報告書ハ英米佛蘇等ノ反防共国家カ我国及滿洲国ニ對シ、更ニ經濟壓迫ヲ強化シ、本年半頃遂ニ經濟斷交ニ至ル場合ヲ假想シ、其影響ノ程度及對策ヲ研究セルモノナリ。

DE 6
8

43.11.12.

775323

內容

		頁
一、	經濟斷交ノ形態	一
二、	經濟斷交ノ影響	一一
三、	對策	三六

一、經濟斷交ノ形態

(一)亞米利加ノ行フヘキ經濟斷交ノ形態

A、中立法ノ發動ニヨルモノ

中立法ノ改正ハ、日支事変並ニ歐洲ノ切迫セル現狀ニ鑑ミ、米国朝野ノ論議ノ的トナリツツアル處ニシテ、如何ナル歸着ヲミルヤ豫測シ難シト雖モ、目下ノ情勢ニ於テハピットマンノ新中立法ヲ中心トシテ贊否頗ル分レタリ。ピットマン提案ノ新中立法案ノ骨子ハ概ネ次ノ如シ。

ピットマン中立法案主要條項

1. 宣戦布告ノ有無ヲ問ハス、第三国間ニ戦争ノ開始サレタル場合ニハ戦争勃發カラ三十日以内ニ大統領ハ交戦當事国ヲ指名セル布告ヲ發スル義務ヲ有ス。

2. 右布告後、米国ノ船舶カ布告ニ指名サレシ交戦国間ノ旅客、貨物、物資ヲ輸送スルヲ得ス、第三国ヲ通シテ交戦国ニ輸送サル、場合モ右ニ同シ。

3. 交戦国間ノ武器ソノ他商品ハ凡テ取引契約中ニ含マレヲル權利義務カ第三国人ニ移譲サル、迄ハ、米国ノ港ヲ出港シ得ス、又、米国ノ船ニ積載シテ出港スルヲ得ス。

4. 米国市民ハ交戦国ニ船籍ヲ有スル船舶ニ乗船スルヲ得ス。

5. 交戦国ニ對シクレディットヲ供與シ得ス。

即チ、現在ノ中立法ニ比シ、特ニ異ル點ハ第一ニ(1)ノ交戰国指名條項ニシテ、之ニヨリ日支間ノ紛爭ハ直チニ交戰當事国トシテノ指名ヲ受ケ中立法ノ適用ヲ受クルニ至ルヘキコト。第二ニ(2)及(3)ニヨリ現金自国船主義カ武器ソノ他一切ノ商品ニツキ適用サルルニ至ルコトナリ。而シテ、右ピットマン案カ成立セリト假定セル時ノ我国ニ對スル影響ヲミルニ、我国ハ現在既ニ外国ニ於テ殆トクレディットノ便宜ヲ與ヘラレス、「現金自国船主義」ニ近キ取引ヲ行ヒツツアリ。故ニ新中立法ニヨリ特ニ大ナル不利ノ加重サルルコトハ無カルヘク、唯、習慣的ニ代金支拂時期ニ關シ、若干ノ餘裕ヲ與ヘラレ來リシ一部輸入商筋カ現金拂勵行ニヨリ多少困難ヲ免レサルヘク、且日本船ノ船繰リノ上ニ若干ノ変化アルニ止マルヘシト思ハル。

然ルニ右ピットマン案ニ對シテハ贊否必シモ一致セス今、輿論ノ一班ヲ窺フモノトシテ上院外交委員廿二名ノ之ニ對スル態度ヲミルニ概ネ次ノ如シ。

(1) ピットマン案ニ贊成ノモノ――ピットマン（民）ガッフニイ（民）

コナリー（共）

(2) 現金自国船主義ニ反對シ、侵略国ノミニ對シテ輸出禁止ヲナス權限ヲ大統領ニ與ヘントスルモノ（所謂トーマス修正案）――トーマス（民）ペッパー（民）シレット（民）

コハ我国ニ對シテ最モ不利ナル提案ナルモ採擇ノ可能性少シ。但シ中立法附則トシテ日本ニ對スル武器輸出禁止ノ特別規定ヲ設ケントスル妥協案ノ行ハレッツアルハ注目スヘシ。

(3) 中立法ノ廢棄ニ贊成シ、如何ナル新中立法案モ結局ハ不充分ナルヲ免レストシテ代案ヲ提出セサルモノ――マレー（民）ルイス（共）ボラー（共）ハイラム・ジョンソン（共）

(4) 現行中立法ニ於ケル現金自国船主義條項ノ適用ヲ五月一日以降消滅セシムルニ止メントスルモノ――カッパー（共）ラフオレット（進歩）レイノルズ（民）

(5) ビットマン中立案ハ將來ノ歐洲大戦ニ際シ、一方ニ味方スル結果トナルトシテ反對スルモノ――ホワイト（共）シップステンド（農民

勞働）

(6) 新中立法案ニ對シ意見ヲ未タ發表セサルモノ――ハリソン（民）シユウエレンバツハ（民）グリーン（民）ヴアンデンバーグ（共）ジヨージ（共）ワーグナー（民）バークレー（民）

如斯、諸說未タ決セサルニ、現行中立法ノ現金拂自国船條項ハ五月一日ヲ以テ滿期ニ至ラントセル爲、四月十二日ニ至リ上院議員間ニ於テ、若干修正ヲ加ヘテ暫定的ニ延長スヘキ旨諒解成立セリ。

附記

ピットマンノ對日通商制限案

米上院外交委員長ピットマンハ先ニ提案セル新中立法案ニ對スル反對頗ル多キニ鑑ミ、四月廿七日次ノ如キ「對日取引制限ニ關スル共同決議案」ヲ上院ニ提出セリ。

(1) 大統領カ九國條約ノ締約國カ作爲又ハ不作爲ニヨツテ該條約ノ規定並ニ保障ニ違反シ、米國民ノ生命ヲ危險ナラシメ、又ハソノ權

利及特權ヲ剝奪セリト認メ、且ツソノ旨布告セル場合ニハ大統領ハ米國ト當該國トノ間ノ通商ニ制限ヲ加フル權能ヲ與ヘラルヘシ、但シ本法ハ、米國並ニ屬領ノ農產物輸出ニ制限ヲ加フル權能ヲ賦與スルコトナシ、

又、違反國ニ對シテハ差別ナク本法ヲ適用スヘシ、

(2) 通商制限ハ左ノ二種トス

イ、大統領ノ布告中ニ特定セル物資ノ輸出入禁止

ロ、爲替及ヒクレディツトノ制限

(3) 本法規定ノ制限ハ右ノ制限ニ關スル布告案ヲ議會ニ提出セル後、十日ヲ經ルニ非レハ之ヲ課スルヲ得ス

B、中立法以外ノ措置ニヨルモノ

1.ナイ共和黨上議員一派ハ外国紛爭ト徹底的絶縁ヲ計ラントシテ「武器軍需品ヲ戰時ノミナラス、平時ニ於テモ輸出禁止スヘシ」ト主張シツツアルモ、目下ノ如ク軍需工場ノ擴充ヲ圖リ、而モ製品ノ處分ニ苦シミツツアル米国ノ実情ニ於テハ実現ノ可能性ナシ。

2.先ニ都市爆撃ノ不法ヲ口実トシテ飛行機ノ對日輸出ヲ禁止セル場合ノ如ク、国務省カ生産業者及ソノ輸出業者ニ非公式通告ヲ出シ、對日輸出遠慮方ヲ要望スルコトアルヘシ。カカル措置ハ法律上ノ效力ハナキモ、之ニ從ハサル時ハ輿論ノ制裁ハ勿論莫大ナル政府注文ヲ失フ怖レアルヲ以テ殆ト法律的禁止ト同様ノ效果アリ。目下最モソノ危險アルハ銑鉄及屑鉄ニ關スルモノナリ。

3.以上ハ輸入ニ關スルモノナレト我国ヨリノ輸出ニ對シテモ關税引上最惠国條款ノ停止、不買運動ノ醸成等ノ手段ニヨツテ之ヲ阻害スルコトアルヘシ。然レトモ、コレニ對シテハ我国トシテモ報復手段（例之、米棉不買）ナキニ非ス、又生糸ノボイコツトノ如キハ日本生

糸及絹織物ニヨツテ生計ヲ立ツル米国絹羮勞働者ノ激烈ナル反對運動ヲ惹起スヘシ。

4. 金融上ノ壓迫手段ニツイテハ後述、英国ノソレト多ク異ルナキヲ以テ、當該部分ニ讓ル。

(二) 英(佛)国ノ行フヘキ經濟斷交ノ形態

A、国際聯盟ノ制裁範式ニ則ルモノ

伊エ戰爭當時イタリーニ對シテ行ヒタルト同様ノ經濟斷交ヲ行フモノトセハ次ノ如シ。

1. 日本ニ對スル武器彈藥、軍需品ノ輸出・再輸出、又ハ積換輸送ノ禁止(既契約ノモノハ勿論、履行準備中ノモノニモ凡テ適用)

2. 日本政府、公共團体ニ對スル融資及公債應募、債務返濟ノ禁止並ニ日本領土内ニ在ル個人及法人ニ對スルクレディット供與及社債應募株式發行ノ禁止及ヒ未完濟債務返濟ノ禁止

(右ハ日本ノ媒介者トシテ行動スル第三国ノ政府及個人法人ニ對シ

テモ適用ス）

3. 特別ノ例外ヲ除キ日本及ソノ屬領ヨリ輸出サル、商品ノ全面的輸入禁止及軍需資材及原料ノ對日輸出禁止

然ルニ右ノ如キ斷交ヲ実現セントセハ强力ナル実效的措置ヲ必要トスヘク、実際上完全ナル実行ハ不可能ナリト思ハル。殊ニ對日貿易ニ重大ナル利益ヲ有スル屬領自治領カ日本ノ報復ヲ犯シテカカル强壓的手段ニ一致スヘキコトハ到底考慮シ得サル處ナリ。

B、貿易政策及金融爲替政策ニヨルモノ

1. 關税引上、特定商品ノ輸出入割宛又ハ禁止、通商協定ノ條件悪化、不買運動ノ醸成等ハ益々激化スヘク、例之、四月十二日、日々ニヨレハ「英国ハ此程或種商品ノ日本向ノミニ對シ、ソノ建値ヲ一擧四割方ノ大幅引上ヲ行フ一方取引條件ニ於テモ從來ノ本邦港CIF（運賃保險料拂込値段）ナリシモノヲFOB（本船積込値段）ニ改メ

シカモ該商品ノ殆ト積出シ不可能ナル港ノFOBトスル等実質的輸出禁止ノ擧ニ出テタリ」ト云フ。

2. 金融上ニ於テハ既ニ、日本商社ニ對スル金融ノ引締メ（貸付金ノ逐次回收ト新規申込ニ對スル拒絶）、無担保貸越契約ノ一方的廢棄、日本公社債ニ對スル担保取扱ノ中止等ヲ行ヒツツアリ。亜ニ円爲替ノダンピング、日本公社債ノ賣叩キノ怖レアレト、事実問題トシテハ市場狹隘ニシテ大量賣叩キ不可能ナルヘシ。最モ憂慮スヘキハ爲替割引ノ拒絶及ヒ手形取引ノ拒絶ニ至ルコト之ナリ。

二、經濟斷交ノ影響

A、貿易ニ及ホス影響

(一)輸出

我国輸出貿易ノ制裁国ニ對スル依存度ハ第一表ノ示ス如ク、円ブロック除外外国向輸出ニ對スル六〇%ノ高度ニ達ス。而シテ、對日經濟斷交ノ場合之等諸国カ極力我国輸出ニ對シテ輸入禁止、抑壓ノ方策ニ出ツルコトハ言ヲ要セサル所ナルカ、此場合ニ於ケル本邦輸出品ノ蒙ムルコトアル可キ抑壓ノ限度如何、之カ推算ハ、周到ナル国別商品別基礎調査ニ依ルモ尚極メテ困難ヲ免カレサルモ、本稿ニ於テハ、大体ノ想定ニ基キ左ノ如ク豫想スルモノトス

(イ)我国輸出ノ大宗貨物タル生糸ハ米国ノ必要重要資源ニシ而モ之カ輸入禁止抑壓ハ直ニ国内ノ絹業勞働者ノ失業ヲ釀ス恐アリ、且我国ノ米棉輸入ト關連スル所アルヲ以テ、容易ニ其擧ニ出テサルモノト思フ。

其他我国ノ特産品ニシテ列国ノ重要資源若クハ生活必要品ニ屬

スルモノハ、比較的抑制サルルコト尠ク、精々一二割程度ニ止マルモノト推定ス。（第二表參照）

(ロ) 我国特産品ナレ共概ネ生活必需品ニ非サルモノハ需要ノ伸縮容易ナルニ依リ三分ノ一程度ノ輸入抑壓ハ免カレサルモノト推定ス。（第三表參照）

(ハ) 輸入原料品ニ依ル製品ハ生活必需品ト雖モ輸入原料ノ獲得難ト製品價格ノ騰貴ニ因リ同シク三分ノ一程度ノ減少ハ已ムヲ得サル所ト思ハル。（第四表參照）

(ニ) 輸入原料製品ニシテ而モ必需品ナラサルモノ、特ニ其大宗貨物タル綿織物類ニ至ツテハ他面、英国品トノ競爭關係モアリテ、其ノ影響サルル所最モ激甚、恐ラクハ最悪ノ場合半減スルニ至ル可シ。（第五表參照）

次ニ、支那事変ニ因ル英米国ノ對日輸入ヲ事変勃發ヲ境トシテ前後一ケ年宛ヲ比較スルニ第六表ノ如ク總平均一八・四%ノ減少ヲ見タリ、因ニ、昭和十一年ヲ標準トスレハ昭和十三年度ハ約五億

二千萬円、二五%ノ減少ニ當ル。

更ニ最近ノ本邦貿易收支ヲ參照シ（第七表）本年度ノ輸出豫想ヲナスニ、朝鮮台湾ヲ含ミ大体十六億前後ト推定サル。而シテ本年半ニ經濟斷交ニ入ランカ、年初以來ノ既經過分ヲ考慮ニ容レ、大凡三割ノ減少ニ止マルト想定スレハ我国ノ輸出額ハ十一億二千萬円トナル。

滿洲国及北支ノ輸出額ハ本年度ノ輸出豫想一億八千五百萬円及一億三千萬円ニ對シ、ソレソレ五千萬円乃至四千萬円ノ減少ヲ見ルモノトセハ、前者ハ一億三千萬円、後者ハ九千萬円程度トナリ、円ブロック合計十三億四千萬円ナリ。

(二)輸入

本邦輸入貿易ノ英米佛ニ對スル依存度ハ第八表ノ示ス如ク輸出ヨリ更ニ高度ニ、七〇%以上ニ達ス、其中國防資源ト目サルルモノノ制裁國ヨリノ輸入ハ別掲（輸出入貿易五年計畫要綱七九頁參照）ノ如ク極メテ大ニシテ、僅カニ、アンチモン、水銀カ斷交ノ重壓ヨリ免カルルノミ、油類ノ如キモ現狀ニ於テハ米國ニ依存スルコト極メテ大ニシテ、油質ノ關係ヨリ蘭領印度ニ轉嚇スルコト困難ナランカ重大問題ヲ惹起セサルヲ得ス。

然シ乍ラ、我國カ一度、經濟斷交下ニ置カルル場合ニ於テ、我國ハ極力之等資源ヲ防共國家群及中立國ニ仰クト共ニ、我彈大ナル海軍力ヲ以テ、南洋ヲ制壓シ、此等地域ノ資源ノ獲得ニ全力ヲ盡ス可シ、尙英米ノ屬領ニシテ軍事的理由ヨリ經濟斷交ニ本國ト其軌ヲ一ニセサルモノナキヲ保セス、此點若干ノ樂觀材料アリト云フヘシ。

從ツテ、特ニ緊急ト目サルル重要資源ハ概ネ左ノ如シ。

(イ)石油類　伊太利制裁ノ實例ニ徵スレハ、世界產油國ノ統一的制裁加入ハ不可能ト思ハル、蘭領印度ハ英國系資本下ニアルモ、軍事的關係ヨリ恐ラクハ我ニ對シテ中立的態度ヲ持スルヲ最モ得策トス可ク、オクタン價ノ問題ハ將來我國技術ノ進歩ニ伴ヒ、或程度補正スルコト不可能ニ非ス。加フルニ中南米石油產國モ當然ニハ、石油制裁ニハ合流セス、隨ツテ、尠ク共戰爭勃發ニ至ル迄ハ輸入ニ重大ナル支障ヲ蒙ムルコトナカル可シ。

(ロ)屑鉄　從來八〇ー九〇%迄米國ニ依存シ、而モ同國ニ於テ、從來屢々對日輸出禁止案上程サレオルヨリシテ、最モ經濟斷交ノ可能性多キ商品ナリ、勿論同國ニ於テハ、我國ハ主要ナル顧客ニシテ、我方ノ市場不參加カ價格ノ激落ヲ招ク虞アル故ヲ以テ、若干樂觀ノ余地ナキニシモアラス、然シ乍ラ英米ノ斷交實行サレンカ、他ニ補塡ノ方策ナキヲ以テ、國內故鉄ノ回收ト製鉄法改善ノ外ナカル可シ。

(ハ)非鉄金屬、銅、鉛、亞鉛、錫、ニツケル　英米ニ依存スルコト九〇%以上ニ及ヒ、之カ禁止ハ重大問題タルヲ免カレス、事前ニ繰上輸入ヲ行ヒ或程度「ストツク」スルヲ急務ト信ス、只之等資源カ比較的ニ、東亞地域ヨリ供給サルル實情ニ鑑ミ、將來ニ若干ノ期待ヲ有シウルモノトス。

(ニ)生ゴム　英國殖民地八〇%ニ及フヲ以テ、若干南洋ヨリ補給シ得ルモノトスルモ我國ノ打擊ハ甚大ナルモノアリ、幸ニ我軍事行動カ同地域ニ及ヒ得レハ、却ツテ英米ト地位ヲ顚倒シ彼ニ大脅威ヲ與フルコトヲ得ヘシ。

(ホ)棉花、米國ノ農民對策上、我國ニ輸出禁止ヲ斷行スルコトハ絕對ニ不可能ニシテ、印度モ亦同樣ノ地位ニ在リ、後者ハ從來我國綿布ト「バーター」制ヲ採レルコトヨリスルモ、輸出禁止ノ措置ヲトルコトナシト考ヘラル。從ツテ我國ノ支拂能力存スル限リ棉花ノ資源難ヲ危惧スルノ要ナシト思フ。

(ヘ)羊毛、濠洲產業ノ中樞ニシテ國民ノ生計ニ關スルコト米國印

度ノ棉花ト同様ナリ、先年日濠協商ノ事例ニ徴スルモ、我國ノ羊毛分散買付政策ノ成功ニ鑑ミ、濠洲カ對日羊毛輸出斷交スルカ如キハ到底豫想セラレサル所ニ屬ス。

（第一表）　我国輸出貿易ノ對制裁国依存度（單位千円）

国別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
英本国	一四七三〇九	一六八二九七	一三四九七二
香港	五八四四五	四九一五〇	一六七五四
英領馬來	二四四一	三八六五	二一八一
海峡植民地	五八七七〇	六七四三三	二〇六九六
英領印度	二五九一〇八	二九九三六七	一八八〇四〇
加奈陀	一四五五四	二〇〇三六	一五二四四
南阿聯邦	四一五三四	五三七四九	三五二八九
濠太剌利	六八七六三	七二〇八〇	六九三八八
新西蘭	一六七四〇	一九三五八	一四八〇八
英属領計	六六七六六四	七五三三三五	四九七三七二
佛蘭西	四三四七五	四七二〇八	三六八一四
佛領印度支那	四六九七	四六二四	三〇八二
米国	五九四二五一	六三九四二八	四二五一二四
總計	一三一〇〇八七	一四四四五九五	九二二四九六
總額ニ對スル割合	六四・〇九％	六〇・五九％	六〇・五三％

（註一）　我国内地ノミ円ブロック向ヲ除外ス。

（第二表）　我国特産品ニシテ生活必需品ノ輸出　（単位　千円）

	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
米及麥	四九三八		
豆類	六七二二		
茶	一下一七七	一二八八	二七〇六〇
水産物	一六四三六	一六〇四六	二一三一八
寒天	四二二七	五六七	六七五大
罐壜詰食料品	五五〇六九	六八四二一	八下六七二
植物油	三下二九九	三五二三	二三三五二
薄荷油	二二八一	二九六八	二九六三
魚油及鯨油	六四二一	九六二五	一四七二八
除虫菊	六四〇〇	三二〇七	七六九三
樟腦	五〇三九	四八四三	四七七四
薄荷腦	五四〇一	四九八大	六一一大
屑糸眞綿及玉糸等	二五六九	一三六四	二三二九
生糸	三八七〇三二	三九二〇九	四〇七一一八
計	五四五〇一一	五六八九五九	六〇八九五九

（註一）　内地貿易ニシテ円ブロックヲ除ク外国向ノモノナリ。
以下三表モ同様ナリ。

（第三表）　我国特産品ニシテ非生活必需品ノ輸出　（單位　千円）

	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
石鹸	一四六〇	二〇七一	三六六
燐寸	三〇七五	一九七五	一六七八
絹織物	七三二九〇	六三八七〇	六九〇一四
絹製手巾	三九五三	四一九二	五六三八
セメント	五九〇一	五八八六	六四三二
陶磁器	三九二四二	三九七三二	四八七二八
硝子及同製品	二一〇五	三三二三〇	二九七六三
木材	一五一六五	一七七二〇	二五三五九
製帽用眞田	四六一五	五七九八	七八七六
ブラッシユ	四九四八	五四五五	六六二七
計	一七二七五四	一六九九一九	二〇一四八一

（第四表）　輸入原料製品ニシテ生活必需品ノ輸出　（單位　千円）

	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
小麥粉	二七一九	二二〇二	一二七四
精糖	七一一四	五六七六	六三八四
綿織糸	三〇六五二	三一四二四	四一六〇七
人造絹糸	一六〇八〇	二〇二三三	四一六〇
綿織物	四三八三六六	四〇六七二七	四八六五五六
計	四九四九三一	四六六二六二	五八〇三八一

（第五表）　輸入原料製品ニシテ非生活必需品ノ輸出　（單位千円）

	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
麥酒	二四九八	二八〇〇	二八六〇
毛織物	二〇七五三九	二九九〇九〇	二四六七
人造絹織物	一一六二六九	一二六七四四	一三六二五〇
綿ブランケット	六八九七	六六二一	七一六一
綿タオル	六二七六	六五九二	八六二一
メリヤス製品	四七八五四	四六五一五	五五二二
帽子及帽体	一四三二一	一七七〇	二三七二
鈕釦	九五二二	一一一三	一一一二
身邊裝飾品	一一七一〇	一一一六大	一一五九
紙類	九三五〇大	一七七四	一五八五
鉄製品	二三五〇大	二六八〇	二三七二
ゴムタイヤ	七四九一	六七五一	七五四二
洋傘	二〇三七	二六二〇	二六六二
ランプ及同部分品	一四五一九	一九九四	一九六二
玩具	三三二一	三五九二	四一二五
計	三二八二二四	三六〇七一大	四一七〇七三
雜品	四六五六五七	五六八九一四	六七三七七四
合計	七九三八八一	九二九六三〇	一〇九〇八四七

（第六表）　支那事變勃發前後一ヶ年ノ輸出增減（%）

國別	戰前一年	戰後一年	增減（△）率
英本國	一五二九六六千円	一六一八〇三千円	五・八%
香港	六七七七五	二三五五〇	△六五・三
英領馬來	三五三五	二五五三	△二七・八
海峽殖民地	七一九九一	三七五六〇	△四七・八
英領印度	二六一二一五	二五八七六〇	△〇・九
加奈陀	一八五四五	一七四六二	△五・八
南阿聯邦	四六二三九	四八四一二	四・七
濠太剌利	五七七五二	八三三八四	三三・八
新西蘭	二三五八五	一七二六九	△二六・八
英屬領計	五五〇六三七	四八八九五〇	△一一・二
佛蘭西	四四三六三	四二二九〇	△四・七
佛領印度支那	四九九〇	三八二一	△二一・四
米國	六六六三五六	四七七七八二	△三〇・四
總計	一四三九三一二	一一七四六四六	△一八・四

一、自昭和十一年七月至十二年六月ヲ戰前一ヶ年トス。
一、自昭和十二年七月至十三年六月ヲ戰時一ヶ年トス。

（第七表）　最近本邦貿易收支表（單位千円）

		昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
輸出	總額	二、六九二、九七六	三、一七五、四一八	二、六八九、六七七
	円ブロック向	六四八、七一五	七九〇、二五八	一、一六五、五四〇
	外国向	二、〇四四、二六一	二、三八四、一六〇	一、五二四、一三七
輸入	總額	二、七六三、六八一	三、七八三、一七七	二、六六三、三三七
	円ブロック向	三九四、二五三	四三七、九〇六	五六四、〇五〇
	外国向	二、三六九、四二九	三、三四五、二七一	二、〇九九、二八六
出入超（△）	總額	△七〇七、〇六	△六〇七、七五九	二六、三四〇
	円ブロック向	二五四、四六二	三五三、三五二	六〇、四八九
	外国向	△三二五、一六八	△九六〇、一一二	△五七五、一四九

（註一）内地ノミヲ採ル、之ノ外ニ外地（朝鮮、台灣）ヨリノ輸出若干アリ。

（註二）円ブロック中ニハ滿洲、關東洲全支ヲ含ミ香港ヲ除外スルヲ以テ、外國ニ屬スルモノ若干ヲ含ムコトトナル。

（第八表）　我國輸入貿易ノ對制裁國依存度（單位千円）

國別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
英本國	七二九四二	一〇五七七二	六三一五七
香港	三二八二	五三三二	一三〇八
英領馬來	三九一二五	四七七九五	四一八〇一
海峽植民地	四一一七四	六七九六	五四一六七
英領印度	三七二〇〇九	四四九四八六	一七二二三一
加奈陀	七三一七九	一〇四六九二	九一二六〇
南阿聯邦	二二五六一	八八八二	九五五八
濠太剌利	一八一九一四	一六五二五二	八二八七五
新西蘭	二一九七三	四八六三三	一〇二一〇
英屬領計	八二八一五九	一〇八三六一〇	五三一五六七
佛蘭西	一九八九八	二七八八五	一三五〇二
佛領印度支那	二〇一五二	二七〇一二	二〇三〇一
米國	八四七四五三	一二六九五四二	九一五三五四
總計	一七一五六六二	二四〇八〇四九	一四八〇七二四
總額ニ對スル割合	七二・四一%	七一・九八%	七〇・五三%

B、金融ニ及ホス影響

(一)一般金融物價ニ對スル影響

經濟封鎖ノ下ニ於テハ貿易ノ萎縮ト之ニ伴フ產業擴充ノ停頓ト縮少ニヨリ物資ノ不足ハ益々激化スヘシ、一方軍需ヲ中心トスル需要ノ總量ハ依然トシテソノ著シキ削減ヲ望ミ難キヲ以テ、物價ノ高騰、惡性インフレノ顯現ハソノ可能性頗ル增大シ、需給ノ調整ハ最モ樞要且ツ困難ナル問題トナルヘシ、更ニ爲替相場ニ及ホス影響ヲミルニ、戰爭危機ノ切迫ヨリスル下落ノ惧レハ充分之レ有リ、右ノ點ニ於テ貿易管理ノ强力ナル實行ヲ必要トスヘキモ、金準備ノ枯渴テフ現象ヨリシテ直チニ爲替相場下落ノ事態ニ立至ルコトハ無之キモノト思ハル。蓋シ、爲替相場ハ經濟的ニハ元來國際貸借尻ノ如何ニ依存スルモノニシテ、コノ場合、貿易ハ縮少スレトモ貸借尻ハ却ツテ赤字減トナル可キヲ以テナリ。

(二)爲替金融ニ對スル影響

經濟封鎖下ニ於テハ爲替割引ノ拒絶ト更ニ進ンテ手形取引ノ拒絶トノ場合ヲ豫見セサルヘカラス、而シテ問題トナルハ畢竟前者ニ就テハ輸出手形ノ出廻、後者ニ就テハ輸入手形ノ出廻ニ在ルモ計數的ニハ封鎖ヲ受クヘキ時期如何ニ依テ相當開アリ、依テ玆ニハ假ニ先ス昭和十三年度ノ実績ニ準シ最大最小ノ限界ヲ求メ之ヲ基礎トシテ前陳封鎖下貿易ノ豫想額ニツキ比例的ニ影響ノ程度ヲ測定スルコトヽス、而シテ封鎖下ノ貿易ハ昭和十三年実績ニ對シ輸出ニ於テ七掛輸入ニ於テ約八掛半程度ノ見込ナリ、

第三國貿易	昭和十三年実績	封鎖下豫想	十三年実績ニ對スル割合
輸出	十五億三千万円	十一億二千万円	七三%
輸入	二十一億六千万円	十八億九千万円	八七%

イ爲替割引拒絶ノ場合

爲替ハ倫敦、紐育、決濟ノモノ多キカ故ニ各本國及其ノ屬領ノ外爲替上仝系ノ中立國ヲ含ムモノトシ昭和十三年実績中最大ノ連續三ケ

月間取扱高ニ付キ先ツ最大限ヲ求ムレハ

磅地域ハ	
手形出廻（九〇日）	二億六千四百万円
爲替割引六割トセハ	一億五千八百万円
弗地域	
手形出廻（九〇日）	一億六千三百万円
爲替割引六割トセハ	九千八百万円

合計二億五千六百万円ノ金融的打撃トナルモ信用狀付ノ手形ニ對シテモ割引ヲ拒絶スルトキハ自國取引先ノ不利ヲ招クコト、ナルヲ以テ此分ハ引續キ割引ヲ期待シ得ラルヘキカ故ニ之ヲ兩地域トモ三割程度ノモノトセハ結局ノ金融的打擊ハ左ノ半額ニ下リ結局磅地域七千九百万円、弗地域四千九百万円兩地域合計一億二千八百万円トナル計算ナリ

仝樣ニ最小ノ連續三ケ月間取扱高ニヨルトキハ打擊ノ最小限ハ左ノ如ク磅地域五千三百万円、弗地域三千六百万円兩地域合計ハ八千九百万円トナル、

	磅地域	弗地域
手形出廻（九〇日）	一億七千七百万円	一億二千百万円
爲替割引（六〇％）	一億六百万円	七千二百万円
L/C付割引（三〇％）	五千三百万円	三千六百万円
差引割引拒絶	五千三百万円	三千六百万円

仍テ封鎖下貿易ニ於テハ左ノ七掛トシテ爲替割引拒絶ニヨル打撃ハ左ノ如ク六千万円乃至八千万円ト概算セラルヘシ

最大限

磅地域	五千五百万円
弗地域	三千四百万円
計	八千九百万円

最小限

磅地域	三千七百万円
弗地域	二千五百万円
計	六千二百万円

ロ、手形取引拒絶ノ場合

手形取引拒絶ノ場合ハ現金取引ノ外ナキヲ以テ双方トモ從來手形ノ出廻額タケノ新資金ヲ要スヘキニ至ル筈ナルモ輸出手形卽チ先方ノ輸入ニ就テ手形取引ヲ禁止スルカ如キハ自國商人ノ不利甚シキヲ以テ恐ラクソノコトナカルヘシ仍テ問題トナルハ輸入手形ノミ故ニ昭和十三年実績ニ據ルトキハ輸入手形出廻ノ最大限ハ各中立國ヲ除キ

磅地域	一億七千五百万円
弗地域	二億八千八百万円
計	四億六千三百万円

而シテ最小限ナラハ

磅地域	一億千四百万円
弗地域	一億九千万円
計	三億四百万円

トナルヲ以テ封鎖下ニ於ケル打撃ハ右ノ八掛半トシテ左ノ如ク二億六千万円乃至三億九千万円ト推算セラルヽナリ

	最大限	最小限
磅地域	一億四千九百万円	九千七百万円
弗地域	二億四千五百万円	一億六千百万円
計	三億九千四百万円	二億五千八百万円

然ルニ手形取引ノ禁止ノ如キ強硬ナル手段ハ屬領ニモ等シク之ヲ及ホスハ事実容易ナラサルモノト推セラル、ヲ以テ各本國ノミノモノトセハ

	最大限	最小限
英國	二千五百万円	七百万円
米國	二億七千七百万円	一億八千三百万円
計	三億二百万円	一億九千万円
右ノ八掛半	二億五千七百万円	一億六千百万円

（註）佛ソハ少額ニシテ問題トナラス

即チ一億六千万円乃至二億五六千万円ノ打撃トナリ而モ其ノ殆ント全額ハ米國ノ封鎖參加ニ依テ始メテ蒙ルヘキ打撃ナリ、

※※※※※※※※※※※※

要之爲替割引ノ拒絶及手形取引ノ拒絶ニ基ク金融上ノ打擊ハ前者六千万円乃至九千万円、後者一億六千万円乃至二億五千万円ナレハ最高三億五千万円ノ打擊トナル場合ヲモ豫想セサルヘカラサルモノアルカ如シ、仍テ此ノ場合ニハ日銀ノ準備金五億円ノ外爲替基金三億円中未使用ノ二億ヲ併セ總額七億円ノ保有金ニ對シ恰カモ其ノ半額ヲ振向クルコトヲ要スヘキ勘定ナリ、

猶手形取引ノ拒絶ニ就テ附言スヘキハ前記貿易手形ノミナラス金融手形ノ取引ヲモ包含スル場合ノ影響ナルカ新規貸付拒絶ノ場合ニ就テハ現在ト雖モ事実上之ト殆ント変ラサルマテノ情態ナレハ問題トナラス更ニ現在借用中ノ債務ニ就テ手形期限ノ到來ト共ニ隨時解約セラルヽニ至ルトキハ其ノ打擊、尠少ナラサル見込ナルカ計數突止メ難シヽ、但シ絶對之ニ應セサル最後手段アルモソノ場合差入中ノ擔保ヲ喪失スルノ不利アルヲ想ハサルヘカラス

虎	
一	第三国貿易中ノ
仏蘭西	約年額
独逸	〃
ソ聯	〃
以外ノ地域ハ取扱金額僅少ニシテ問題トナラズ	
出	三三〇〇千円
入	一一二〇〇千円

昭和十三年度磅地域及丼地域貿易月別表

（単位千円）

地域別		月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
磅地域	英本國	輸出	10.700	10.900	10.100	15.400	8.800	7.700	9.400	15.400	10.200	×13.100	×12.700	×12.600	137.000
		輸入	5.700	※8.200	※10.300	※6.800	4.800	7.000	5.700	4.300	3.600	1.600	2.900	2.700	63.600
		差引出入(△)超	5.000	2.700	△200	8.600	4000	700	3.700	11.100	6.600	11.500	9.800	9.900	73.400
		〃 累計	5.000	7.700	7500	16.100	20.100	20.800	24.500	35.600	42.200	53.700	63.500	73.400	
	英屬領	輸出	28.400	27.000	30.000	30.000	27.900	29.200	25.800	29.600	35.700	×33.700	×36.200	×42.100	377.600
		輸入	35.500	27.100	※46.800	※57.400	※46.200	39.800	33.700	36.000	37.200	36.800	44.800	46.500	487.800
		差引出入(△)超	△7.100	1.900	△16.800	△27.400	△18.300	△10.600	△7.900	△6.400	△1.500	△3.100	△8.600	△4.400	△110.200
		〃 累計	△7.100	△5.200	△22.000	△49.400	△67.700	△78.300	△86.200	△92.600	△94.100	△97.200	△105.800	△110.200	
	磅系中立諸国	輸出	27.000	26.800	28.200	27.500	27.100	19.100	21.800	31.200	30.000	×35.100	×35.600	×42.800	352.200
		輸入	21.400	24.700	28.000	22.900	22.700	26.700	18.900	15.200	19.800	14.600	18.900	39.700	273.500
		差引出入(△)超	5.600	2.100	200	4600	4400	△7.600	2.900	16.000	10.200	20.500	16.700	3.100	78.700
		〃 累計	5.600	7.700	7.900	12.500	16.900	9.300	12.200	28.200	38.400	58.900	75.600	78.700	
	合計	輸出	66.100	67.600	68.300	72.900	63.800	55.900	57.000	76.200	75.900	×81.900	×84.500	×97.500	867.600
		輸入	62.600	60.000	85.100	87.100	73.700	73.500	58.300	55.500	60.000	53.000	66.600	88.900	824.300
		差引出入(△)超	3.500	7.600	△16.800	△14.200	△9900	△17.600	△1.300	20.700	15.900	28.900	17.900	8.600	43.300
		〃 累計	3.500	11.100	△5.700	△19.900	△29.800	△47.400	△48.700	△28.000	△12.100	16.800	△34.700	△43.300	
丼地域	米国	輸出	25.700	27.300	33.900	27.300	33.900	29.900	32.400	47.300	38.700	×42.900	×41.700	×47.200	428.200
		輸入	56.900	56.900	69.700	※85.100	※91.400	※100.400	72.700	74.900	66.800	59.400	81.500	100.300	916.000
		差引出入(△)超	△31.200	△29.600	△35.800	△57.800	△57.500	△70.500	△40.300	△27.600	△28.100	△16.500	△39.800	△53.100	△487.800
		〃 累計	△31.200	△60.800	△96.600	△154.400	△211.900	△282.400	△322.700	△350.300	△378.400	△394.900	△434.700	△487.800	
	米屬領	輸出	3.300	×3.800	×3.200	×3.800	2700	2.500	1.900	1.800	2.400	2.200	2.700	2.700	33.000
		輸入	2.400	1.700	4200	3.500	2.400	1.900	2.800	2.000	2.600	※2.700	※5.200	※3.600	35.000
		差引出入(△)超	900	2.100	△1.000	300	300	600	△900	△200	200	△500	△2.500	△900	△2.000
		〃 累計	900	3.000	2.000	2300	2.600	3200	2300	2.100	1900	1.400	△1.100	△2.000	
	丼系中立諸国	輸出	×8.800	×9.600	×9.300	8.300	6900	6.000	4.900	6.400	5.500	6.800	7.500	9.600	84.600
		輸入	8.000	8.400	4.000	3.600	6.000	8.000	8.400	10.600	14.600	12400	11.600	7.800	93.400
		差引出入(△)超	800	6.200	5300	4700	900	△2.000	△3.500	△4200	△9.100	△5.600	△4.100	1.800	△8.800
		〃 累計	800	7.000	12.300	17.000	17.900	15.900	11.400	8200	△900	△6.500	△10.600	△8.800	
	合計	輸出	37.800	40.700	46.400	39.400	43.500	38.400	39.200	55.200	46.000	×51.900	×51.900	×59.500	549.900
		輸入	67.300	62.000	77.900	92.200	99.800	110.300	83900	87.500	84.000	74.500	98.300	111.700	1049.400
		差引出入(△)超	△29.500	△21.300	△31.500	△52.800	△56.300	△71.900	△44.700	△32.300	△38.000	△22.600	△46.400	△52.200	△499.500
		〃 累計	△29.500	△50.800	△82.300	△135.100	△191.400	△263.300	△308.000	△340.300	△378.300	△400.900	△447.300	△499.500	

備考

一、第三国貿易中磅及丼以外ノ地域ハ取扱金額僅少ニシテ問題トナラズ

佛蘭西　年額輸出　三大、八〇〇千円　輸入　一三、五〇〇千円
ソ聯　〃　五二〇〇　〃　八〇〇
独逸　〃　三三〇〇　〃　一、七一二〇〇
伊太利　〃　三三〇〇　〃　五八〇〇

一、右ノ内独逸ハ取扱金額比較的嵩ムモ防共陣中ニ在レバ問題ナシ

×印　最大連続三ヶ月間輸出　※印　最大連続三ヶ月間輸入

C、産業ニ及ホス影響

周知ノ如ク、東亞新秩序ノ建設ニ方向付ケラレタル日本産業カ、ソノ推進ノ槓杆トシテ取上ケタルモノハ生産力擴充計畫及ヒ物動計畫ナリ。卽チコレラ計畫ハ一部平和産業ノ犧牲ノ下ニ、國防産業ノ急速ナル擴充ヲ計リ、當面增大スル軍需ニ應セントスルニアリ、然モ上述ノ如ク經濟斷交カイハハ戰爭ヲ氣構ヘルモノナル限リ、コレラノ計畫ノ遂行ハ日本産業ニトツテ一應必須不可缺ノ要件ナリト言ヒ得。

元ヨリ生産力擴充計畫ハ日本産業ニ於ケル重工業部門ノ劣勢ヨリ海外依存性ノ克服ヲ目標トスルモノナレト、差當リソノ計畫遂行ノ過程ニ於テハ莫大ナル資材、原材料ヲ海外殊ニ反防共國家群ニ仰カサルヘカラス。試ミニ昨年十二月十七日生産力擴充委員會ノ「生産力擴充計畫上必要トスル機械設備所要額」ヲ總括スルニ次表ノ如シ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第一表 「生産力擴充計畫上必要トスル機械設

部門	産業別	十四年度 國産	十四年度 國産 %	十四年度 輸入	十四年度 輸入 %	十四年度 計	十四年度 計 %	十五年度 國産	十五年度 國産 %	十五年度 輸入	十五年度 輸入 %	十五年度 計	十五年度 計 %	（次行・下端切レ）
甲・一般工業部門	鐵鋼	八一・九	七六・九	二四・七	二三・一	一〇六・六	一〇〇	一四九・七	八八・四	一九・七	一一・六	一六九・四	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	石炭	五九・五	九六・七	二・〇	三・三	六一・五	一〇〇	四八・三	九六・一	二・〇	三・九	五〇・三	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	アルミニウム	一二・八	六一・六	八・〇	三八・四	二〇・八	一〇〇	一五・五	一〇〇	－	－	一五・五	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	マグネシウム	三・九	一〇〇	－	－	三・九	一〇〇	九・八	一〇〇	－	－	九・八	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	銅	五・七	一〇〇	－	－	五・七	一〇〇	一五・一	一〇〇	－	－	一五・一	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	鉛	二・六	一〇〇	－	－	二・六	一〇〇	三・八	一〇〇	－	－	三・八	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	亞鉛	八・〇	一〇〇	－	－	八・〇	一〇〇	一〇・〇	一〇〇	－	－	一〇・〇	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	錫	〇・三	一〇〇	－	－	〇・三	一〇〇	〇・二	一〇〇	－	－	〇・二	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	ニッケル	三・九	一〇〇	－	－	三・九	一〇〇	三・八	一〇〇	－	－	三・八	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	金	四二・八	一〇〇	－	－	四二・八	一〇〇	五二・三	一〇〇	－	－	五二・三	一〇〇	
甲・一般工業部門 鑛業資源	計	一三九・四	八七・五	二〇・〇	一二・五	一五九・四	一〇〇	一五八・八	九八・八	二・〇	一・二	一六〇・八	一〇〇	二
甲・一般工業部門	石油及其代用品	四五・六	四一・六	六四・一	五八・四	一〇九・七	一〇〇	九〇・四	五六・六	六九・三	四三・四	一五九・七	一〇〇	一
甲・一般工業部門 化學工業品	ソーダ灰	－	－	－	－	－	－	七・四	一〇〇	－	－	七・四	一〇〇	
甲・一般工業部門 化學工業品	苛性ソーダ	－	－	－	－	－	－	四・九	一〇〇	－	－	四・九	一〇〇	
甲・一般工業部門 化學工業品	工業塩	八・五	一〇〇	－	－	八・五	一〇〇	三・八	一〇〇	－	－	三・八	一〇〇	
甲・一般工業部門 化學工業品	硫安	－	－	一〇・〇	一〇〇	一〇・〇	一〇〇	－	－	八・〇	一〇〇	八・〇	一〇〇	
甲・一般工業部門 化學工業品	パルプ	二一・三	八五・〇	三・八	一五・〇	二五・一	一〇〇	二六・九	九一・五	二・五	八・五	二九・四	一〇〇	
甲・一般工業部門 化學工業品	計	二九・三	六八・四	一三・八	三一・六	四三・六	一〇〇	四三・〇	八〇・三	一〇・五	一九・七	五三・五	一〇〇	
甲・一般工業部門	電力	一二〇・四	九一・二	一一・六	八・八	一三二・〇	一〇〇	一八二・四	九三・五	一二・八	六・五	一九五・二	一〇〇	二
甲・一般工業部門	計	四一七・一	七五・五	一三五・一	二四・五	五五二・二	一〇〇	六二四・三	八四・五	一一四・三	一五・五	七三八・六	一〇〇	八
乙.機械工業部門 機械工業	鐵道車輛	一七・六	八六・九	二・七	一三・一	二〇・三	一〇〇	一二・二	八五・九	二・〇	一四・一	一四・二	一〇〇	
乙.機械工業部門 機械工業	造船	一一・六	三三・六	二三・〇	六六・四	三四・六	一〇〇	七・〇	一〇〇	－	－	七・〇	一〇〇	
乙.機械工業部門 機械工業	自動車	八・三	二六・六	二三・〇	七三・四	三〇・三	一〇〇	九・六	四〇・九	一三・八	五九・一	二三・四	一〇〇	
乙.機械工業部門 機械工業	工作機械	一一・〇	二三・九	三五・二	七六・一	四六・二	一〇〇	一一・〇	三七・九	一八・〇	六二・一	二九・〇	一〇〇	
乙.機械工業部門 機械工業	計	四八・五	四三・九	六四・三	五六・一	一一二・八	一〇〇	三九・七	五四・二	三三・八	四五・九	七三・五	一〇〇	
	合計	四六五・六	七〇・〇	一九九・五	三〇・〇	六六五・一	一〇〇	六六四・〇	八一・八	一四八・一	一八・二	八一二・一	一〇〇	八

設備所要額」

（單位百万圓）

	十六年度 國産	%	十六年度 輸入	%	十六年度 計	%	合計 國産	%	合計 輸入	%	合計 計	%
〇〇%	一一一・五	六七・一%	三・八	三二・九%	一一五・三	一〇〇%	三四三・一	六八・七%	四八・一	一二・三%	三九一・二	一〇〇%
〇〇	五二・九	九六・四	二・〇	三・六	五四・九	一〇〇	一六〇・七	九六・四	六・〇	三・六	一六六・七	一〇〇
〇〇	一四六・七	一〇〇	―	―	一四六・七	一〇〇	一七四・九	九五・六	八・〇	四・四	一八二・九	一〇〇
〇〇	一一・〇	一〇〇	―	―	一一・〇	一〇〇	二四・六	一〇〇	―	―	二四・六	一〇〇
〇〇	二〇・五	一〇〇	―	―	二〇・五	一〇〇	四一・三	一〇〇	―	―	四一・三	一〇〇
〇〇	一・一	一〇〇	―	―	一・一	一〇〇	七・五	一〇〇	―	―	七・五	一〇〇
〇〇	三・九	一〇〇	―	―	三・九	一〇〇	二二・〇	一〇〇	―	―	二二・〇	一〇〇
〇〇	〇・八	一〇〇	―	―	〇・八	一〇〇	一・三	一〇〇	―	―	一・三	一〇〇
〇〇	二・一	一〇〇	―	―	二・一	一〇〇	九・九	一〇〇	―	―	九・九	一〇〇
〇〇	五二・七	一〇〇	―	―	五二・七	一〇〇	一四七・七	一〇〇	―	―	一四七・七	一〇〇
〇〇	二九一・六	九九・三	二・〇	〇・七	二九三・六	一〇〇	五八九・八	九六・一	二四・〇	三・九	六一三・八	一〇〇
〇〇	一四八・二	七七・〇	三・五	二三・〇	一五一・七	一〇〇	二八四・一	六七・五	一三六・九	三二・五	四二一・〇	一〇〇
〇〇	一四・〇	一〇〇	―	―	一四・〇	一〇〇	二一・四	一〇〇	―	―	二一・四	一〇〇
〇〇	六・四	一〇〇	―	―	六・四	一〇〇	一一・四	一〇〇	―	―	一一・四	一〇〇
〇〇	五・〇	一〇〇	―	―	五・〇	一〇〇	一七・三	一〇〇	―	―	一七・三	一〇〇
〇〇	三〇・二	一〇〇	―	―	三〇・二	一〇〇	三〇・二	六二・七	一八・〇	三七・三	四八・二	一〇〇
〇〇	二一・〇	八五・六	三・五	一四・四	二四・五	一〇〇	六九・二	八七・六	九・八	一二・四	七九・〇	一〇〇
〇〇	七六・七	九五・六	三・五	四・四	八〇・二	一〇〇	一四九・五	八四・四	二七・八	一五・六	一七七・三	一〇〇
〇〇	二四四・四	九四・八	一三・三	五・二	二五七・七	一〇〇	五四七・三	九三・六	三七・六	六・四	五八四・九	一〇〇
〇〇	八七二・四	九七・一	二六・〇	二・九	八九八・四	一〇〇	一九一三・八	八七・四	二七五・四	一二・六	二一八九・二	一〇〇
〇〇	八・七	一〇〇	―	―	八・七	一〇〇	三八・五	八九・二	四・七	一〇・八	四八・一	一〇〇
〇〇	―	―	―	―	―	―	一八・六	四四・七	二三・〇	五五・三	四一・六	一〇〇
〇〇	〇・八	三八・六	一・三	六一・四	二・一	一〇〇	一八・七	三二・九	三八・一	六七・一	五一・六	一〇〇
〇〇	四・〇	三六・三	七・〇	六三・七	一一・〇	一〇〇	二六・〇	三四・八	六〇・二	六五・二	八六・二	一〇〇
〇〇	一三・五	六一・八	八・三	三八・二	二一・八	一〇〇	一〇一・七	四八・九	一〇六・五	五一・一	二〇八・二	一〇〇
〇〇	八八五・九	九六・三	三四・三	三・七	九二〇・二	一〇〇	二〇一五・五	八四・一	三八一・九	一五・九	二三九七・四	一〇〇

右表ノ如ク、輸入資材ハ相當巨額ニ上リ、殊ニ石油工業、自動車工業工作機械工業ニ於テハ夫々十四年度五八・四、七三・四、七六・一パーセント、十五年度四三・四、五九・一、六二・一パーセントノ高率ナリ。シカモコレラ資材ハ、想定ノ如キ險惡ナル國際情勢下ニ於テハ盟邦獨伊ニモ多クヲ期待シ得サルノミナラス、輸入力モ亦乏シトセハ生産力擴充計畫ハ全面的編成替ヲ必要トスヘシ。シカモ斷交下ニ於テ增大スヘキ需要ニ對シテハ、極力民需ヲ削減シ、增産ニ努ムルトモ素ヨリ之ニ應シ得ヘクモアラス。從テ國防産業ノ生産品カアケテ軍需ニ充當セラレ、且ツ後述ノ如ク「繰上ケ輸入」モ亦生産力擴充用資材ヲ全然含マサルモノトスレハ、今日ノ生産力擴充計畫ハ全ク成立スルコトヲ得サルヘシ既ニ斷交下ノ日本輸出推定額ニ見タル如ク、輸出又振ハストスレハ、現ニ物動計畫下ニ於テ極メテ窮屈ナル平和産業ハ益々萎縮セサルヲ得ス、ソレニ關聯シテ勞働者其他種々ノ問題ヲ惹起スルニ至ルヘシ。之ヲ要スルニ、經濟斷交ノ日本産業ニ及ホス影響ハ極メテ甚大ニシテ、

コレカ對策ニシテ宜シキヲ得サレハ日本産業ハ根柢ヨリ震撼セラルルニ至ルヘシ。

三、對策

A、貿易對策

先ニ述ヘタル如ク英米經濟斷交ノ場合ニ於テ我國貿易ノ蒙ムルコトアル可キ影響重大ナル點ヲ考慮シ從來提唱シ來レル貿易政策ト共ニ、特ニ左ノ二方策ヲ講スルヲ緊要ト認ム

(イ)輸出對策

現在輸出增加策トシテ殘サレタル問題ハ、低物價政策ト貿易統制機構確立ノ二途アルノミ、前者ハ既ニ、我國不動ノ國策トシテ要綱決定セルニ付玆許言及セス、只輸出物價低下ノ效果的方法トシテ、輸出奬勵金ノ交付並ニ一志二片爲替相場拋棄ニヨリ、拍車ヲカケウルコトヲ示唆スルニ止ム、後者ニツイテハ、既ニ屢々論シタル所ナルモ、刻下貿易ノ重要性ニ鑑ミ、此際至急貿易關係機關ヲ綜合統一シ、爲替管理ト貿易管理ヲ一元化シ、事務ノ簡抄ト輸出向上ニ全力ヲ注カサル可カラス、尙從來輸出組合ノ自治統制ノ範圍ニ於テハ、統制破リ多ク、輸出增進ノ目的ニ副ハサルモノアリ、自由競爭主義ニヨル進取的市場開拓

ノ特徴ヲ失ハサル程度ニ於テ確固タル組合ノ設立統合又ハ輸出國策會社ノ必要ヲ主張セントスルモノナリ、

(ロ) 輸入對策

時局ノ重大性ニ鑑ミ、我國ノ不足資源ニシテ將來其ノ購入ニ最モ困難ヲ豫想サル可キ鐵類、非鐵金屬、及油類其他ノ國防資源並精密機械類等ニ関シテハ、我國ノ輸入能力存スル限リ、可及的繰上輸入スルハ現下ノ急務ナリ。然ラスンハ一朝經濟斷交或ハ開戰ノ場合假定支拂能力ヲ有スルモ、之等資源ヲ得ルコト困難ナル場合ナキヲ保セス、仍テ日銀準備金ヲ放出シテ繰上輸入ニ充テ將來戰ノ見透ノ如何ニ依リテハ、生産力擴充資材ノ輸入ヲ一時控フルモ亦已ムヲ得サルモノト信ス、繰上輸入計畫ヲ斷行スル場合ノ十四年度圖ブロツク輸入力及輸入內容ヲ豫想スレハ左ノ如シ

（單位百万円）

輸入分析		
輸入力	輸出	本邦	一、一二〇
		滿洲國	一三〇
		北支	九〇
		計	一、三四〇
	圖ブロック新產金		二五〇
	準備金		五〇〇
	貿易外收支		(一)二〇〇
	合計		一、八九〇
輸入分析	圖ブロック輸出用原料		二六〇
	同 國民消費		二六〇
	軍需		七〇〇
	繰上輸入		六七〇
	合計		八九〇

右表ハ本年半ニ於テ我國ニ對スル經濟斷交カ行ハル、場合ヲ假想セル繰上輸入計畫ノ一案ナルカ、今後常時、經濟斷交乃至大戰ノ勃發ヲ覺悟セサル可カラストセハ、封鎖經濟下ノ貿易計畫ヲ樹立スルコトハ最モ必要ナリ。封鎖經濟下ノ貿易計畫ハ所謂經濟戰又ハ經濟謀略ノ分野ニ屬スルモノト考ヘラレルカ、內外ノ諸事情ハ斯ル經濟謀略ニモ一定ノ計畫性ヲ與ヘルコトノ必要痛感セラル。

B、金融對策

(一) 一般金融物價對策

前陳ノ如ク封鎖下ニ於テハ現在既ニ漸ク顯著ナラントシツ、アル、物資ノ不足、物價ノ暴騰、惡性インフレ招來ノ危險ハ極メテ强キ誘因ノ下ニ置カル、ニ至ルヘキヲ以テ之カ對策モ亦現在、行ハレツ、アル物資需給ノ調整、消費節約、物價統制ノ强化ニ存スヘキハ勿論ナリ、サレハ所謂自治的統制ノ如キ緩漫ナル方法ヲ以テハ到底ソノ難関ヲ突破シ得サルヘク、宜シク計畫經濟强行ノ線ニ沿ウテ國家總動員法ノ全面的發動ニ依ツテ、金融機構ノ現制ニ就テモ、適宜强化統制ノ途ヲ講シ、以テ資金ノ配

分、國債ノ消化、物價ノ抑圧等ニツキ、經濟運營ノ基調ヲ確立スル處ナカル可ラス、例之、資金ノ調整ニ於テモ、單ニ固定資金ノミナラス、運轉資金ニツキテモ充分ノ統制ヲ要請サルヘク、亦、物價統制ニ於テモ切符制度ノ一般的採用ノ如キ直接ニ物資ノ方面ヨリスル配給調整ヲ必要トスルニ至ルヘキモノト思ハル、

(三) 爲替金融上ノ對策

一般的ニ爲替管理ヲ强化シ、金增産、退藏金ノ强制收用ニヨル、金準備補顚ノ途ヲ講スヘキハ勿論ナルカ、更ニ

(イ) 割引拒絶カ英米兩國ヨリ仝時ニ行ハル、時ハ他ヘ振替フル余地ナキヲ以テ、商品ノ方面ヨリ中立國ニ振替フルノ方法ヲ考慮スルノ他ナカルヘク

(ロ) 手形取引ノ拒絶サル、場合ノ對策トシテハ、豫メ適當ノ現送ヲ行ヒ在外正貨ヲ用意シ置クコト、若クハ要輸入分ノ先廻リ買付ケヲ行フノ他ナキモノト思ハル、

(ハ) 繰上輸入計畫ヲ斷行スル場合、日銀準備金カ一時枯渇スヘキモ、之カ直チニ爲替相場ノ下落ニ影響スルコト無カルヘキハ前述セル如クナルヲ以

テ、ソノタメ差當リ、特別ノ對策ヲ必要トセサルヘシ、マタ假リニ爲替金融上影響アリトスルモ、斯ル緊急措置ハ大戰直前ノ非常對策ニシテ、其可否ハ綜合國策ノ見地ヨリ論セラルヘキモノナラン。

C、産業對策

既ニ見タル如ク、經濟斷交カ日本産業ニ大打擊ヲ與ヘ、生産力擴充計畫ノ改變カ要求セラルルトスレハ、コレニ對シテ速カニ新計畫ヲ樹立セサルヘカラス。

生産力擴充計畫ノ實績ニ關シテ、從來ソノパーセンテーヂヲミテ樂觀論ヲ唱フルモノ少カラサレト、ソノパーセンテーヂハ直チニ翌年度ノ實績ニ貢獻スルモノニ非ス、タトヘ九九パーセント完成セル設備ト雖モ殘リ一パーセントヲ缺ク時ハ稼動スルコトヲ得サルナリ。從テタタ漫然トカカル割合的增設ニヨルコトハ極メテ危險ナリ。斷交下ニ於テ建設資材入手不可能トセハ、新計畫ハ狙ヒ打的增設ト人的資源ノ活用ニ依ル增産ヲ基礎トシテ立案セラレサルヘカラス。

カクテ從來、現在ノ生産力擴充計畫ニ卽應シツツアル産業構成モ亦新計畫ニ伴ツテ改編セラルヘシ。從ツテ各企業間ニ於テ、又企業內部ニ於テモ、新計畫ニ卽應シテ急速ナル調整必要ナリ。國防産業ハ繰上ケ輸入ニ伴フ原材料其他ノ處理ニ備ヘテ急速ニ、新事態ニ對應スル組織

ヲ整ヘ、平和產業ハ一層ノ整備ニ備ヘテ遊休設備ノ轉用、勞働力ノ轉業其他ヲ計ラサルヘカラス。

右ノ如キ生產力擴充計畫ノ改編ハ、繰上輸入ト相俟ツテ必然的ニ物動計畫ノ再編成ヲ必要トス。殊ニ輸出入カ斷交下ニ於テハ從來ヨリ更ニ惡化スルコト上述ノ如シトセハ、物動計畫ハ遙カニ嚴密ニ編成替セラレサルヘカラス。

カクテ斷交下ニ於ケル國防產業新計畫及ヒ新物動計畫ハ、斷交下ノ產業狀態ニ正シク適應スルト共ニ、更ニ斷交ノ後ニ來ルヘキモノニモ對應セサルヘカラス。卽チ斷交ノ後ニ來ルモノカ戰爭ナレハ、ソレニ備ヘテ飛躍シ得ヘキ要素ヲ既ニ織込ミ居ラサルヘカラス、又國際不安ノ情勢ニ戻ルモノトセハ、現在ノ規模ニ於ケル、或ハ擴大セル規模ニ於ケル生產力擴充計畫ニ編成替シ得ル如キ、極メテ彈力性アル計畫タラサルヘカラス。

要スルニ、右ノ如キ將來ノ見透シヲ伴フ彈力性アル國防產業計畫、物動計畫ノ立案・遂行ニヨツテ始メテ、經濟斷交ニヨツテ日本產業ノ衰

微ヲ期待シ居ル反防共國家群ノ重壓ヲ排除スルヲ得ヘシ。